

なは女性センターだより 366号

毎年9/20を含む1週間は、

那覇市男女平等週間です!!

那覇市では、沖縄の女性たちが初めて選挙権を行使した1945年9月20日を記念して、毎年9月20日を含む1週間を『男女平等週間』と定め、この期間に、すべての人が平等に活動できる社会を目指して、パネル展を開催します。一人ひとりが自分らしく生きられる社会を、身近なことから考えてみませんか？

那覇市男女共同参画に関するこれまでのあゆみ(抜粋)

1988	那覇市女性行動計画
1998	なは男女共同参画都市宣言(なは男女平等推進プラン) 第2次那覇市女性行動計画
2005	那覇市男女共同参画推進条例
2008	第3次那覇市男女共同参画計画(なは男女平等推進プラン)
2019	第4次那覇市男女共同参画計画(なは男女平等推進プラン) ※計画期間 2019~2028

参考：第4次那覇市男女共同参画計画



なは男女共同参画都市宣言

私たちは、性別、世代、地域を越え、互いに協働し、一人ひとりがいきいきと豊かに暮らせる市民社会の実現をめざし、ここに那覇市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 私たちは、性別にとらわれず一人ひとりが自立し、個性と能力が響きあうまちをめざします。
- 1 私たちは、男女がともに仕事、家事、育児、介護を分かちあい、責任を担いあえるまちをめざします。
- 1 私たちは、政治的、経済的、社会的、文化的なあらゆる分野に男女がともに等しく参画できるまちをめざします。
- 1 私たちは、互いの性を尊重しあい、対等なパートナーとして認めあい、協働できるまちをめざします。
- 1 私たちは、地球環境を守り、世界へ平和を発信し、交流の輪を広げるまちをめざします。

1998年9月28日 那覇市

那覇市男女平等週間 パネル展 9月/18(金)~28(月)

なは女性センター入口ガラス面

展示内容

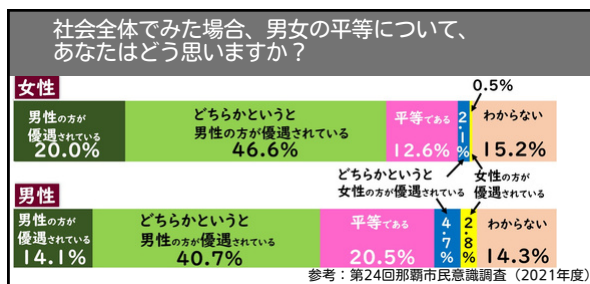
- 那覇市男女平等週間とは
- 戦後の参政権の歴史
- なは男女共同参画都市宣言
- 那覇市男女共同参画推進条例
- 第4次那覇市男女共同参画計画
- 男女比データ
- ジェンダーギャップ指数
- ・・・その他



令和7年度のパネル展から



パネル展の一部を紹介



男女の家事関連生活時間 (沖縄県) 一日あたりの「家事関連時間」(2021年調査)



参考：令和6年度 沖縄県の男女共同参画の状況について

なは女性センター 公式
instagram
やっています!

最新情報を **get** しよう!

- なは女性センター事業のご案内
- 市民講座の受講生募集・実施報告
- 業務時間等のご連絡
- 利用のご案内



@naha_woman_center



follow us!

ご案内

令和8年度 那覇市男女共同参画研修参加費補助事業

那覇市では、男女共同参画に関する研修に参加する市民の皆様に対して、研修参加費用の一部の助成を行っています。

対象研修

- ①沖縄県女性セミナー(海外・国内)「女性の翼」事業
- ②市が必要と認める男女共同参画研修事業
- *県内開催の研修は補助対象外
- *他団体からの補助金との併用は不可

補助対象者

那覇市に住民登録のある人(市税完納者)で、研修参加後に市の男女共同参画事業へ積極的に参加・協力できる人

締切

2027(令和9)年1月29日(金)まで

*ただし、助成額が予算に達し次第、終了します。なお、研修参加前の申請が必要です。

補助金額

経費の2分の1以内(上限5万円)

補助回数

原則として同一人に対し1回限りとします。

補助対象経費

「補助対象研修」への参加費用
*ただし、面接及び事前研修等に要する費用、渡航手続き、旅行保険、懇親会費等、その他個人の負担に属する費用は含まれません。



昨年度の助成交付者の声

報告者

平城 恵さん



「海外研修で感じた”寄り添う力”」

カンボジアを訪れ、教育・医療・女性の現状を学びました。今回の学びを通して、私も地域で女性が輝ける社会づくりに、小さな一歩から関わっていきたいと思います。

報告者

又吉 智賀子さん



「躍動感あふれるカンボジア・悲しい経験を乗り越えて」

個人の尊厳・平和の尊さや命について、共に考えることは男女共同参画の第1歩であり、また復興と自分らしく生きるために「教育」は必要不可欠であると確信しました。

サークル紹介

手話サークル てのひらの会

なは女性センターでは、女性に関する諸問題についての学習や交流、その他の活動の機会として様々なサークルが利用しています。今回は、「手話サークル てのひらの会」を紹介します。

～ 手話は言語。自分の居場所で仲間と語り合う ～

1984(昭和59)年に活動を開始した「てのひらの会」は、今年で42年目を迎える歴史ある手話サークルです。手話奉仕員養成講座で出会った初期メンバーの「もっと勉強したい」という情熱から設立されました。1987(昭和62)年の全国身体障害者スポーツ大会(かりゆし大会)に手話ボランティアとして参加するなど、長年にわたり手話技術の向上に努め



ており、現在では、手話通訳士として活躍するメンバーも在籍しています。

日々の活動では、「日常でのふとした疑問」をテーマに楽しく学習しています。病院の受付、保育園、市役所など、生活の様々な場面で使う表現をメンバーが持ち寄り、実践的な手話を学んでいます。

活動のなかで、ろう者のメンバーがスマートフォンを使って楽しそうにテレビ電話で話す姿が見られました。そこから、手話と通信機器の歴史に話題が

続きます。かつては、直接会うか、手紙しかなかった連絡手段が、FAX、メール、そして現在のスマートフォンへと進化し、いつでも顔を見ながら話せる便利な時代になったと、メンバーは笑顔で語ります。

手話の表現は国や地域によって異なり、日本語と同様に敬語表現もあります。学ぶべきことは尽きませんが、サークルで共に学ぶ仲間と出会い、相手を知ろうとする気持ちを通い合わせられた瞬間に、何よりの喜びを感じるそうです。

今後の楽しみとして、メンバー全員でのバーベキューやみかん狩り、さらには沖縄の新しいテーマパーク「ジャングリア」への旅行など、行きたい場所の話題で盛り上がります。最後に、メンバーの皆さんより、新スポット「ジャングリア」の手話表現を教わりました。使ってみたいと思います！



サ
情
ル
報

手話サークル てのひらの会

活動日:月2回金曜日 19:00～20:30

会員数:10名 (2026年4月23日現在)

一緒に学びたい方
募集中!

講座報告

若い世代の妊娠・出産を社会で支えるために

■ 日時:2026年 8月29日(土) 午後2時 ~ 4時

■ 講師:安里千恵子(一般社団法人 ある理事/那覇市受託事業「10代ママの居場所ねいろ」統括)

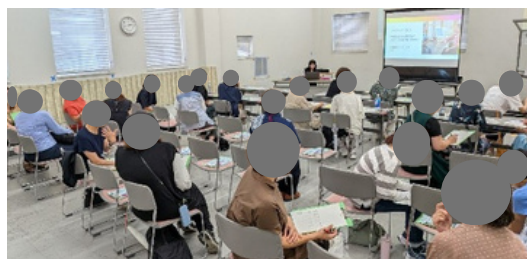
一般社団法人「ある」は、那覇市から委託を受け「10代ママの居場所ねいろ」事業を運営しています。本講座では、統括担当者の安里千恵子さんから活動について伺い、テーマについて参加者と一緒に考えました。



講座は、「最近、助けられて嬉しかったこと」をテーマにペアワークでスタート。受講者同士は初対面ではありませんでしたが、笑顔とリラックスした雰囲気が広がりました。

若年妊産婦とは20歳未満(10代)で妊娠・出産をした女性を指します。沖縄では現在も若年妊娠の割合が全国平均の約2倍という状況が続いています。

1997年に自分らしい出産を望む女性たちが「私らしいお産を考える会」を立ち上げ、2020年に「一般社団法人ある」として法人化されました。子どもの貧困問題を契機に若年出産支援を始め、現在は那覇市から委託を受けて活動を拡大しています。



10代ママ自身が思春期にあり、感情が先行し、衝動的になりやすい時期にあります。妊娠を知った瞬間は混乱し、「私が妊娠？信じられない！」「親に言ったら怒られる」「パートナーは責任をとってくれるのか？」など、気持ちが不安定で激しく揺れ動きます。しかし、誰にも言えないまま、多くの若者が悩みを抱え孤立してしまします。

「10代ママの居場所ねいろ」は、アタッチメント(愛着)の考え方を中心とし、10代ママたちに信頼される大人として情緒の安定と自立を支えています。

活動は、経済的サポートや就労支援、送迎、ミルク・オムツの提供、学業支援など、多角的サポートを行っています。特に学業支援は、妊娠・出産に伴う退学や孤立を防ぎ、将来の選択肢を広げるために極めて重要です。

自己肯定感を高める支援として、コップ選びやどこに座りたいか、レスパイト(息抜き)の場所選びなども彼女たち自身に選択してもらう等、日々の小さな自己決定を積み重ねています。

あるの理念は「あるだけでいい。一人ひとりの“あるがまま”を大事にしたい」です。「否定しない・評価しない・相談できる雰囲気をつくる」を大切に10代ママに寄り添っています。

10代の予期せぬ妊娠は、決して「本人の自己責任」ではありません。性やからだについて正しく学ぶ機会がなかったこと、困ったときに相談できる大人が身近にいないこと等の結果、多くが孤立と不安を抱え、望む未来を思いがけず変更せざるを得ない現実があります。

「高校生から『妊娠したかもしれない…』と相談されたとき、あなたなら最初にどんな言葉をかけますか？」というワークでは、深く考えさせられました。参加者からは「話してくれてありがとう。ひとりで抱えていたんだね。一緒に考えよう」と伝えたい、という声が上がりました。

人とのつながりの中で安心して支え合う力を育てていき、困ったときには誰かに頼っていい、「助けて」と言える生きやすい社会を築くために、私たち自身がどう取り組んでいくべきかを問いかけられる時間となりました。

＼受講者の声／

- 教える体勢ではなく、見守る、寄り添う、一緒に考えることを大切にしたいです (20代)
- 「あなたはどうしたいの？」と問い、一緒に考えていくスタンスで歩みたいと思います (50代)



予 告

なは女性センター開設30周年

2026年
10月1日

1996年10月1日になは女性センターは開設しました。今年で30周年になります。

そこで、来月10月1日より「なは女性センター開設30周年」の様々な取組を行いますので、ご期待ください。



「なは女性センターだより」
10月号に
なは女性センター
30年のあゆみを
特集します



相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時「ダイヤルうない」を利用してみませんか。生きがい、家庭の問題など、さまざまな相談に応じ、自分の意志で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談（性別に関わらず、どなたでも）
- 面接相談（女性のみ・要予約）※
- 法律相談（女性のみ・予約制）※

※那覇市在住・在勤・在学の方に限ります

 **098-861-7515**

相談時間▶月～土 午前9時～12時 / 午後1時～5時



面接相談 二次元コード

相談室「ダイヤルうない」の
面接相談の申し込みは
オンラインでもできます！

面接相談のオンライン申し込みは、
仮予約です。正式な面談日は相談員
から、お電話いたします。

性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で
選択できるように一緒に考えます。
どなたでもご相談ください。

ストップ・DV 情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイ
オレンス（DV）で悩む方を支援するための情報提供
を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」
へお問合せください。

那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録

那覇市パートナーシップ・ファミリーシップに登録される方へ
「登録証明書」および「登録証明カード」を交付しています。
詳しくは、なは女性センターまでお問合せください。

※すでに登録された方へも
「登録証明カード」の交付ができます。

2026年9月3日現在

登録数 86組

うちファミリーシップ 5組



レインボー交流会

「交流の場がほしい」「性の多様性について語りたい」
といった声から生まれた誰でも参加できる交流会です。

名前やセクシャリティなど、話したくないことは話さなくても大丈夫。
多様な性を尊重する方なら、どなたでも歓迎します。

日 時：2026年10月10日（土）14:30～16:30

会 場：なは女性センター学習室

参加費：無料

予 約：不要

主 催：市民団体てぃーだあみ

メール：tiidaami.okinawa@gmail.com



ホームページ



Facebook



instagram

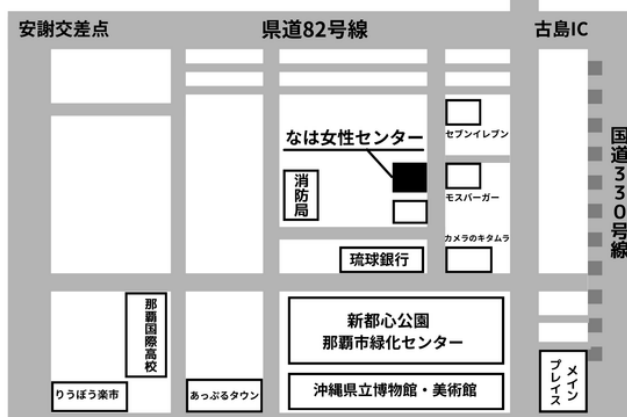


駐車場のご利用



「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の
「ナハメカルパーキング」をご利用ください。
ご利用は有料です。センター利用者は料金の一部が免
除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

■ なは女性センター周辺地図 ■



新着本紹介



著者：上野千鶴子

出版：光文社

発行：2024年1月30日

こんな世の中に誰がした？

ごめんなさいと言わなくてもすむ社会を手渡すために



上野千鶴子

この本は、「仕事、結婚、教育、老
後」といった身近なテーマを取り上
げ、その多くが個人の問題と片付け
られてしまうことについて、著者の
上野千鶴子氏は、この「生きづらさ」
は、社会の在り方に問題があるので
はと提起しています。専門的な難し
い理論ではなく、わかりやすい対話
的な文章でつづられており、年齢・
性別を問わず、すべての
人に読んでほしい一冊です。現在の社会がど
んな社会なのかと、この本を通して、一度振
り返ってみてはいかがでしょうか。



開館時間

月～金：午前9時～午後9時
土曜日：午前9時～午後5時

休館日

日曜日・祝日
慰霊の日（6/23）
年末年始（12/29～1/3）

センター利用者駐車場利用

一部免除料金

最初の2時間まで

100円

最初の2時間を超え1時間ごと

100円



ホームページ



Instagram

follow us